



生成ガスを燃焼してシステムに必要な熱源を作ります。



二重扉構造により投入口開閉時、及び原料投入の際に投入ボックス内をパージすることでガスの流出や空気の流入をを防ぎ安全に原料の連続投入が行えます。



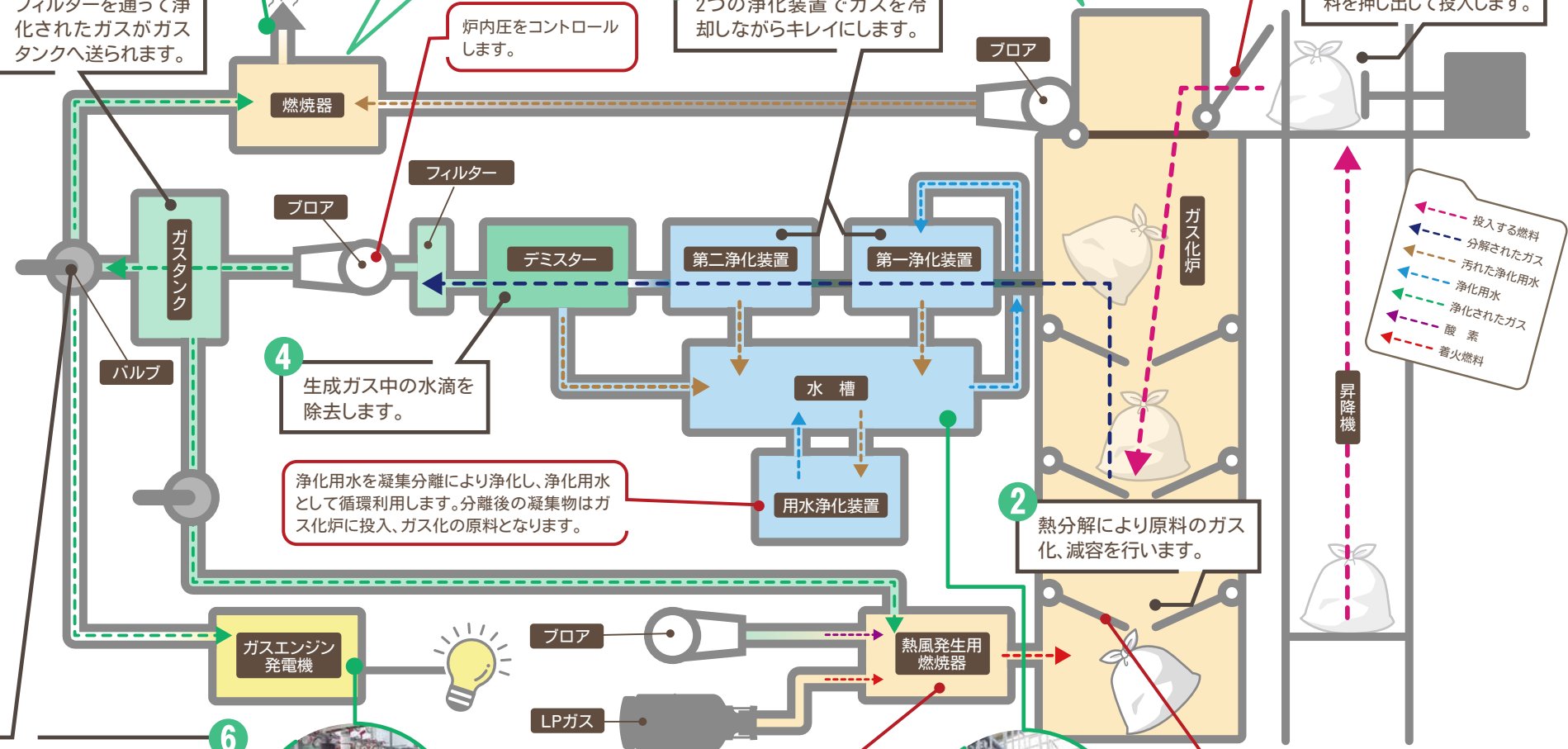
原料投入時に炉内外を完全遮断するための二重扉構造になっています。

5 フィルターを通して浄化されたガスがガスタンクへ送られます。

炉内圧をコントロールします。

3 2つの浄化装置でガスを冷却しながらキレイにします。

1 昇降機で持ち上げられた燃料を押し出して投入します。



投入する燃料  
分解されたガス  
汚れた浄化用水  
浄化用水  
浄化されたガス  
酸素  
着火燃料

4 生成ガス中の水滴を除去します。

浄化用水を凝集分離により浄化し、浄化用水として循環利用します。分離後の凝集物はガス化炉に投入、ガス化の原料となります。

2 熱分解により原料のガス化、減容を行います。

6 浄化後の生成ガスを使用目的に応じて振り分けます。



熱分解に必要な熱風をLPGバーナーで供給。熱分解開始後LPGバーナーはOFF。使用目的に応じて生成ガスを燃料として使用します。



反転式駆動部を設け、炉内の空洞(ブリッジ・ラットホール)防止の為に原料を崩したり、原料の残量を計量する役割があります。